

ごみ処理システムの新コンセプト

1. 基礎情報

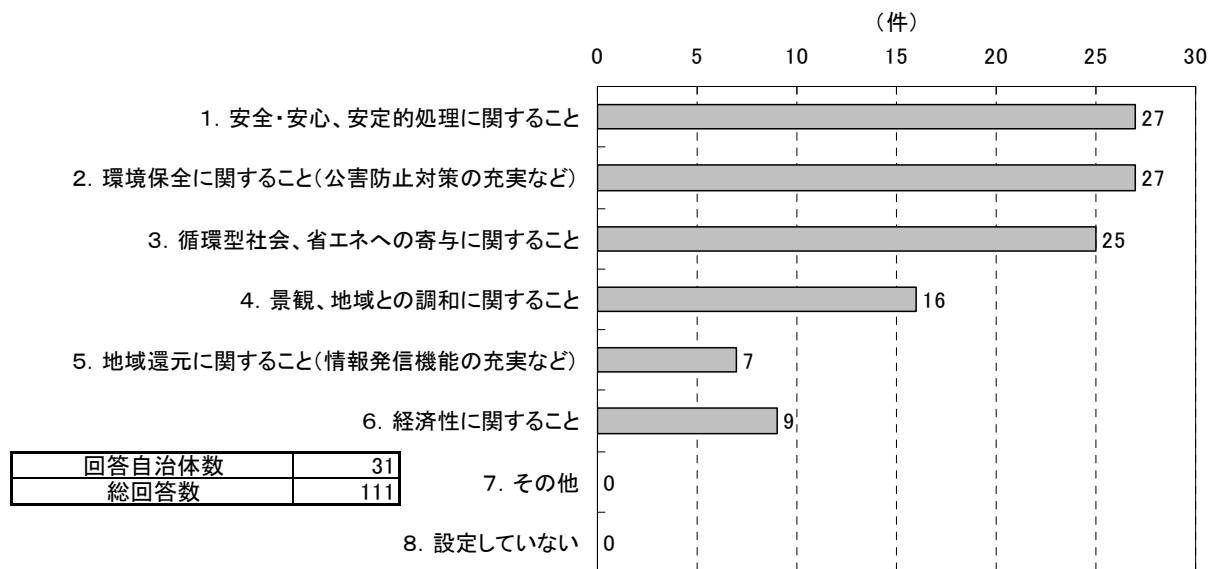
(1) 他自治体のごみ処理施設の設計コンセプト

組合が自治体に対して実施したアンケート調査※の中で、施設の基本コンセプトについて質問した結果は以下の通りである。

※集計結果は平成22年1月18日現在。平成21年12月から平成22年1月の間、48自治体に対して実施。うち焼却施設は37施設、メタン発酵施設は6施設、リサイクルプラザは4施設。

問 施設を建設する際に設定した基本コンセプトはどのようなものですか。＜複数回答可＞

【全体】



この結果より、他自治体における施設の基本コンセプトは、以下の3項目が上位である。

■他自治体のごみ処理施設コンセプトのトレンド

- A 安全・安心、安定的処理に関する事
- B 環境保全に関する事（公害防止対策の充実など）
- C 循環型社会、省エネへの寄与に関する事

(2) 現クリーンセンターの建設における設計コンセプト

現クリーンセンターの建設における設計コンセプト（詳細は第3回検討委員会資料5-2参照）の中から、要点を以下に整理する。

- a-1 ニュータウンにおける総合的な余暇、文化、福祉ゾーン
- a-2 先進的な総合都市施設
(周辺施設・誘致施設との有機的連携、建築景観の確保、地域冷暖房、市民にとって親しみのある施設)
- a-3 長期的基幹処理施設
(長期的対応が可能な処理機能、耐久性のある設備)
- a-4 運転管理の安全性、操作性、保守性の確保
- a-5 施設の建設と維持管理に係る経済性の確保
- a-6 プラントの増設と建替計画への適切な配慮
(将来の増設工事への配慮、恒久立地)
- a-7 余熱の高度利用とプラントの省エネルギー化
- a-8 総合的かつ計画的な視点に基づく環境保全条件

(3) 将来システムの方向性、あり方について

印西地区ごみ処理基本計画（平成21年策定）および印西地区循環型社会推進委員会の平成18年度提言書における将来システムの方向性、あり方（詳細は第3回検討委員会資料5-3参照）の中から、要点を以下に整理する。

[焼却系施設]

- b-1 省エネルギー化
- b-2 環境に与える影響を最小限に
- b-3 廃棄物エネルギーを最大限活用

[リサイクルセンター]

- b-4 環境学習機能、情報発信拠点

[最終処分]

- b-5 当面は飛灰のみのエコセメント化
- b-6 焼却残渣の資源化について検討

[全体]

- b-7 コスト縮減
- b-8 地域と調和した意匠、シンボリックな煙突
- b-9 体験できる場、情報発信拠点としての充実（リサイクルプラザなど）
- b-10 クリーンセンターでの啓発・展示の充実

(4) 現在のごみ処理体系の評価結果

資料-4に整理したとおり、本地区のごみ処理システムの重点課題は以下の4点があげられる。

■現状のごみ処理システムの課題

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 重点課題1 | 国の目標値達成に向けて、ごみの減量化が必要である |
| 重点課題2 | 中間処理プロセスにおける温室効果ガス削減が効果的である |
| 重点課題3 | 高効率なサーマルリサイクルと施設の省エネルギー化を目指す必要がある |
| 重点課題4 | 収集・運搬の効率化と低燃費車両の導入促進が必要である |

2. ごみ処理システムのコンセプト（方向性）の検討

(1) コンセプト立案フロー

前項までに整理した、コンセプトに関連する基礎情報と本地区のコンセプト立案に向けた作業フローを整理すると以下ようになる。

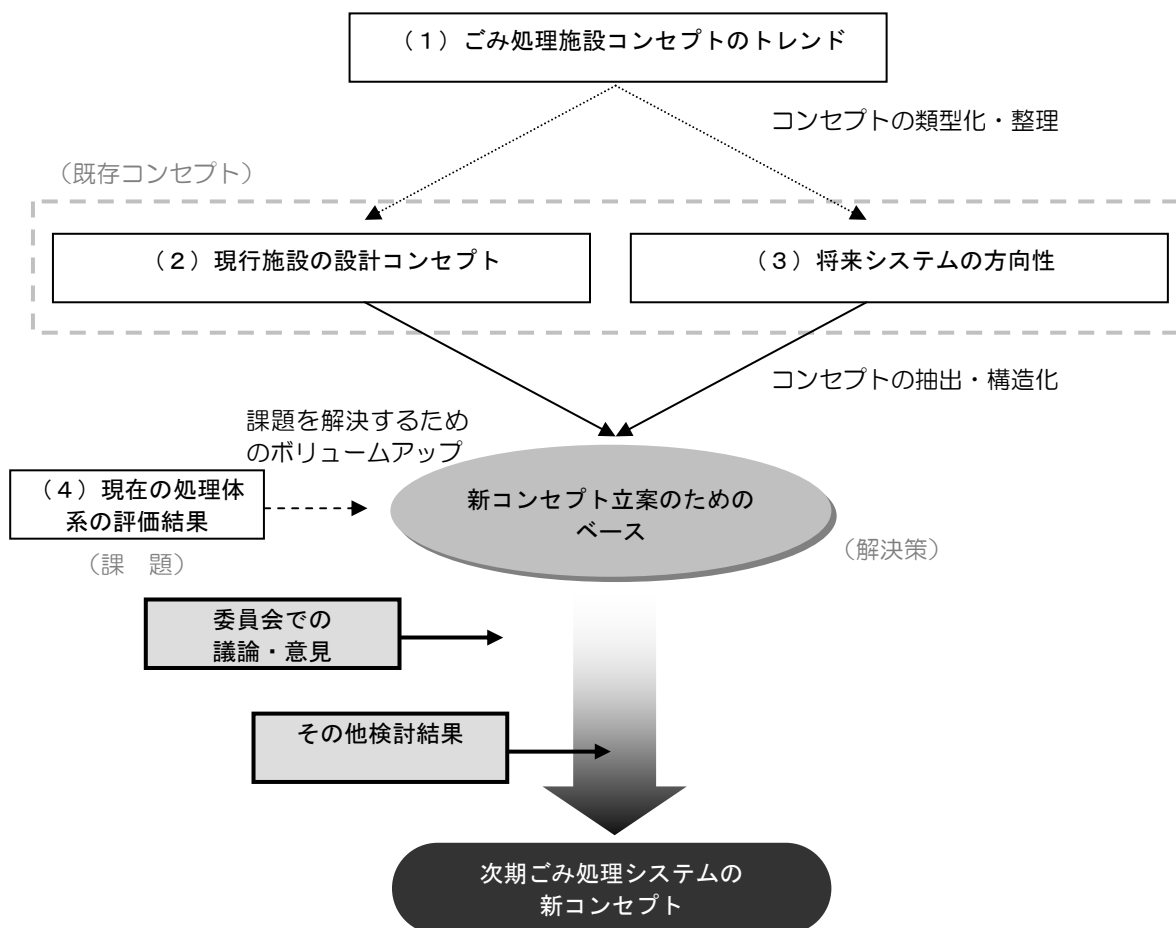


図1 コンセプト立案のための基本フロー

また、図1に沿って基礎情報を再整理すると次頁のとおりである。

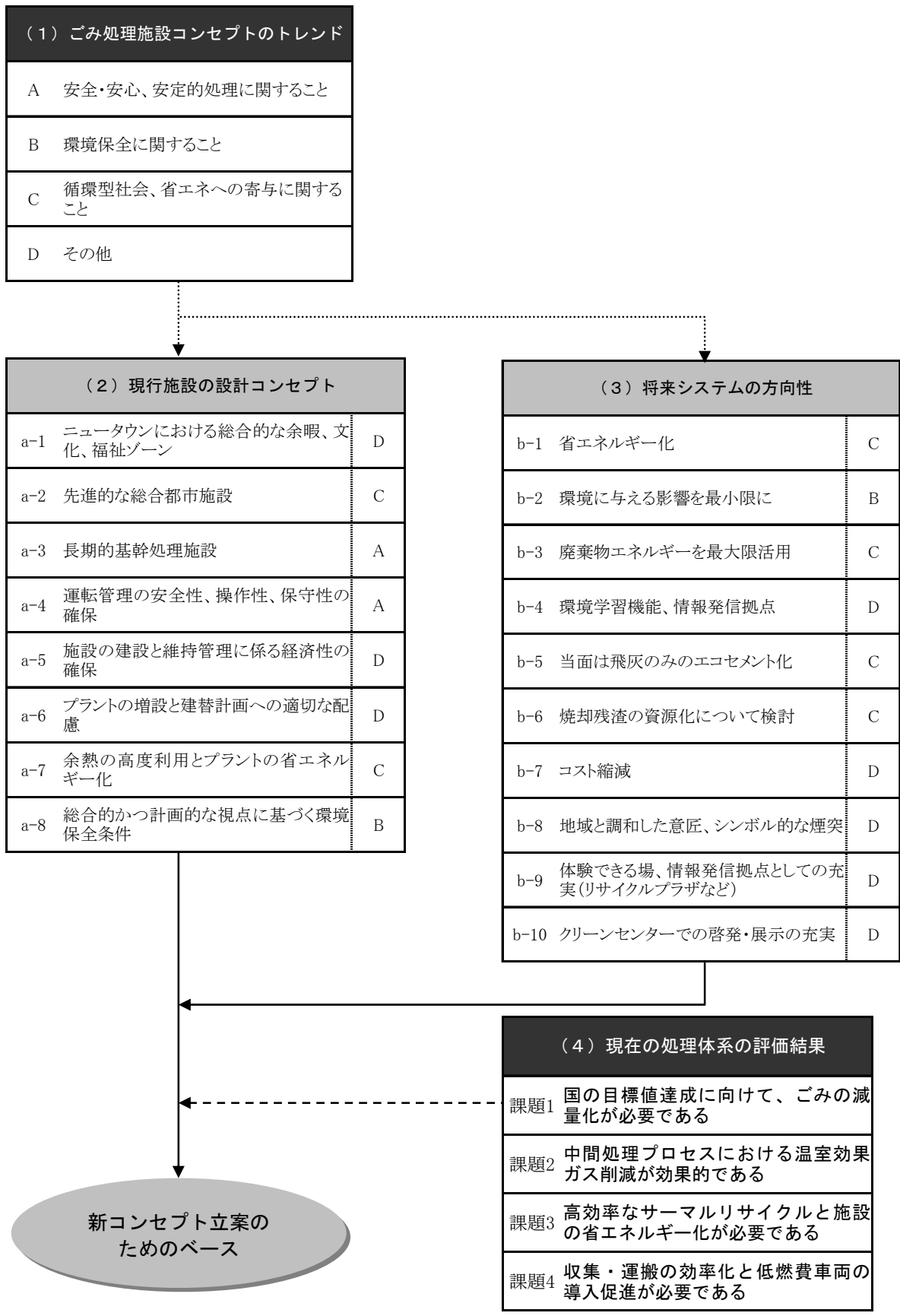


図 2 基本情報一覧

(2) 新コンセプト立案のためのベース作成

1で整理した基礎情報を基に、以下の作業を行った。

- ① ごみ処理施設コンセプトのトレンドをベースに本地区の独自の項目について「D その他」を細分化するとともに、「視点」としてその表現等を含めて再整理した。
- ② 既存コンセプトについて、個々のコンセプトの上位となる基本的事項（基本方針）と具体的なコンセプトに分類するとともに、課題に対応するための新たなコンセプトを3項目追加した。
- ③ 本体系における整合を図るために文言の修正等を加えた。

①～③までの作業を経た新コンセプト立案のためのベースを図3に示す。

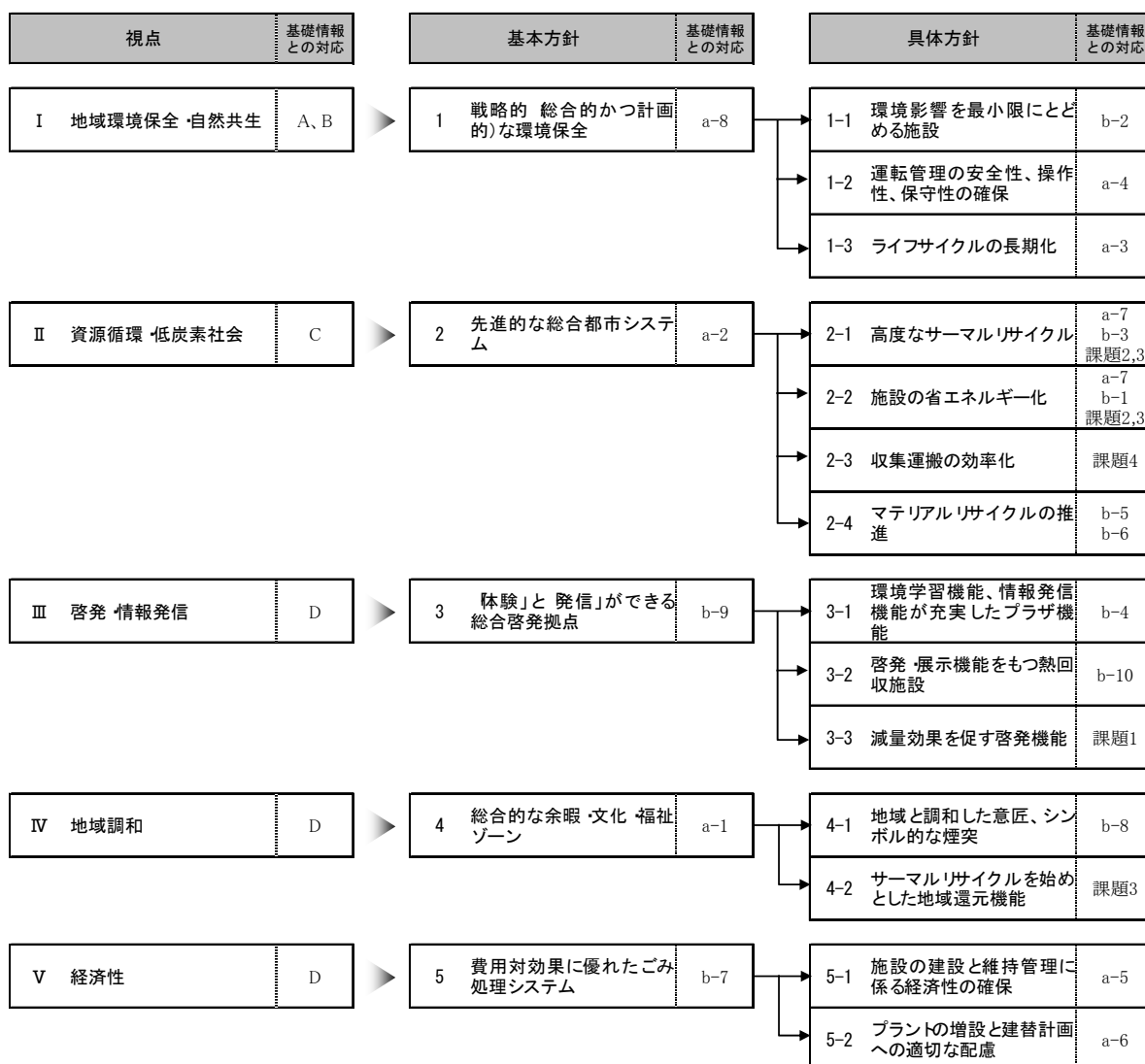


図3 新コンセプト立案のためのベース